

# 「成人市中発症肺炎 (COP) における肺炎球菌性肺炎の疫学研究」

## 研究計画—簡易版

研究形態：前向き多施設共同研究

研究責任者：長崎大学熱帯研究所 臨床感染症学分野 森本浩之輔

京都大学の位置づけ：長崎大学と京都大学とで共同研究を行う。互いに収集した菌株を利用する。

京都大学およびNPO 関連施設の責任者：京都大学 呼吸器内科 伊藤功朗

【対象者】18歳以上の市中発症肺炎患者で、臨床検体から肺炎球菌が分離された患者。

### 【研究資料】

- ①分離された肺炎球菌株（喀痰，胸水，血液培養）：事務局から提供するチューブ2本に保存して，京都大学に送付。
- ②患者情報（別紙調査票をご参照下さい）：各施設担当者もしくは長崎大学で雇用のCRC にて記入。
- ③連結可能匿名化は，各施設で行っていただく。

【研究方法】分離菌株を用いて，以下の検討を行う。

- ・血清型（莢膜膨化試験（quellung reaction），multiplex-PCR 法）と薬剤感受性，薬剤感受性遺伝子，重症化関連物質，疫学的遺伝子解析など
- ・ワクチン接種歴や重症度を加味した分析

【研究期間】開始後2年間。状況により適宜延長を検討する。

※当初の長崎大学の計画では，A. 肺炎球菌菌株の収集（同意書不要）と，B. 診断前喀痰の収集（同意書必要）の2本立てで提案しておりましたが，京都大学では肺炎球菌菌株の収集のみ行うこととなりました。したがって，京都大学医の倫理委員会には，長崎大学の当初の研究計画書を添付し，その中で，Aのみ行うこととし，関連病院と共同研究を行うとして申請し，認可されました。